

カーボンニュートラル実現に貢献

工場内の緑地面積を増やす「苔(コケ)緑化」

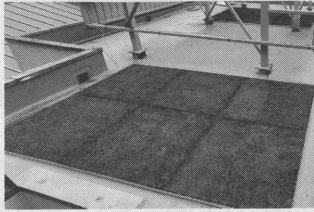


写真3 屋上のコケ緑化

企画概要 ▶ 脱炭素社会、カーボンニュートラルはいまや政治だけでなく産業界が目指す大きな流れだ。目標は温室効果ガスの排出を「全体として0にする」ということであるが、CO₂などのガス排出を完全0に抑えることは非現実的。そこで排出されたCO₂を吸収または除去することで差し引き0にしようというわけ。工場緑化が今注目されるのは、植物が光合成時にCO₂を吸収しカーボンニュートラル（炭素中立）に寄与できるからだ。

工場内の緑化方法は、樹木の植樹か、敷地内の芝生か、あるいは写真3のようにコケを生やすこと。

コケでやりやすい工場の緑化

コケ緑化事業を進めている井関産業(株)（千葉県浦安市・安並潤社長）を訪ねた。同社は18L缶、ドラム缶などの各種容器、包装資材を中心に事業展開している。製品を納品しているユーザーに工場緑化のニーズが高いことを知り、新規事業として取り組んだ。コケ緑化事業に特化して今3年目だ。

「コケは面白いですよ。植えっぱなしで、その後は手間がかかりません。工場敷地に樹木を植える植樹や芝生植生の場合は、メンテナンスに手間がかかり、片時も目が離せないものです」と、同社で事業を担当する産業資材部の安達隆俊係長と中越博信係長はコケ緑化の魅力や、まず水やり（灌水）や施肥が不要で、生命力が強いこと、素人でも誰でもできることだと言う。

コケ緑化の魅力

写真4のコケ緑化のメリットは第一に、樹木や芝のような土壌を必要としないこと。土に根を張って成長するのではなく、薄いマットに根付いて、その後は孢子を飛ばしながら繁殖する。

根をはらないから土壌が必要ない。水やりや施肥が不要だから、灌水設備がない建物の屋上や壁面にも植生がやりやすい。

施工は図4のように薄い保護マットの上にコケマットを接着し、表面は飛散防止ネットで覆う。全体の厚さは40mm。コケは1年に1mm程度成長するが、ネットより上に伸びたコケは乾燥し

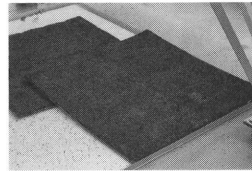


写真4 コケ緑化マット

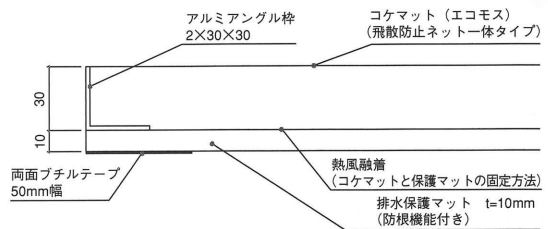


図4 コケ緑化の断面図

て飛散する。全体的に一定の長さが維持され、ほとんど半永久的に生存する。

「カーボンニュートラル」は工場運営に無視できない。CO₂排出に1tにつき1万円の炭素税を課そうという政策案も検討されている。工場内の緑化は差し迫った課題だ。

〔問合せ先 <http://www.isekigroup.co.jp/>〕



Good idea!

2012年4月に改正された工場立地法は、敷地面積9000m²以上、建築面積3000m²以上の工場は敷地面積に対して10~40%の緑化が義務付けられている。脱炭素社会が世界の潮流だ。工場の緑地化はこれから一層要求が厳しくなるだろう。緑地面積確保は工場経営上、大きな課題である。